

The Second Seeing

Ryu Ika

Photography



第21回写真「1_WALL」

グランプリ受賞者個展

Ryu Ika 展

「The Second Seeing」

2020 8/18 火 - 9/12 土

11:00 - 19:00

日曜休館 入場無料 要予約

主催：ガーディアン・ガーデン

The Second Seeing Ryu Ika

第21回写真「1_WALL」グランプリ受賞者個展

Ryu Ika展「The Second Seeing」

2020 8/18 火 - 9/12 土 11:00-19:00 日曜休館 入場無料 要予約



Ryu Ika

今日も幕が開いた。
私の出番だ。

完全な自我を束縛するには演技が必要になる。
そっやって、社会というものは作られている。

みられている。
みられている。
みられている側もみられている。

私が何かを見ると、同時に、その何かにみられるということから、
決して自由になることはできない。
それは、自分の中から第二の自分(他人)を分裂し、
自分という存在を「見直す」ことなのかもしれない。

なんで私は毎日服を着るんだろう？
なんで神聖な場所の中では悪い事ができないんだろう？
なんで自分と他人を見分ける事ができるんだろう？

沢山遼(美術批評家)

「入れ子状の世界内世界を撮影しよう」とし続け、見ることと見られることとの関係に強い関心を抱き続けてきたRyuの写真は、図らずもこの事態と同期してしまったと言えるかもしれない。もちろん彼女の写真は、このことを直接示唆するわけではない。だが、そのことと完全に無関係であるわけでもない。われわれすべてが、トゥルーマンとなりつつあるという現実と、その写真は対応しているからである。

Ryuの写真は、フラッシュを焚く以外には、人為的な操作を比較的抑えた写真であると言える。だが、そこには強烈な劇場性と虚構性がある。そして、それは、写真が本来的に世界内世界をつくりあげてしまうものであるという、写真の存在論自体に関係する。
写真は世界を切り取る装置である。それは、世界のなかにもうひとつ「別の」世界が立ち上がるのだ。ゆえに、すべての写真は、世界内世界の入れ子を表現する。ジム・キャリー演じるトゥルーマンの人生が衆人環視のもと見せ物化される「トゥルーマン・シヨ」と同じく、写真の世界内世界としてのあり方は、必然的かつ部分的に、虚構的・演劇的であらざるを得ない。だが、それは、トゥルーマン(真の人間のシヨ「見せ物」という真/偽の二重性をもつ。Ryuの写真は、それと同様の、架空の真実を垣間見せている。
Ryuは、「トゥルーマン・シヨ」の監視構造と似たジョージ・オーウェルの小説「1984」に登場する、国民行動のすべてを監視する「ビッグ・ブラザー」に撮影者である自身の姿を重ねてグランプリ受賞作を撮った。〇〇〇〇〇の脅威が世界を覆う現在、グランプリ受賞者個展は無事実現されるのだろうかという懸念は残る。そして、このパンデミックを契機として、現在、各国政府による統治と監視の権力が強まる懸念が懸念されている。いまや「ビッグ・ブラザー」は現実のものになろうとしている。
入れ子状の世界内世界を撮影しようとし続け、見ることと見られることとの関係に強い関心を抱き続けてきたRyuの写真は、図らずもこの事態と同期してしまったと言えるかもしれない。もちろん彼女の写真は、このことを直接示唆するわけではない。だが、そのことと完全に無関係であるわけでもない。われわれすべてが、トゥルーマンとなりつつあるという現実と、その写真は対応しているからである。

Ryu Ika (劉怡慧)
中国、内モンゴル生まれ。2020年武蔵野美術大学卒業。2019年第21回写真「1_WALL」グランプリ、T&PHOTO FESTIVAL(ベストポートフォリオ)受賞。同年、個展「いのちを授けるならば」(心げん社・東京・東銀座)、個展「Puzzle Mapping」(AMAC Projectsギャラリー(フランス・パリ))。また、他多数のグループ展に参加。清里フォトアートミュージアムに作品12点收藏。

トークイベント

2020 9/2 水 19:10-20:40 参加無料・要予約

姫野希美(赤々舎代表取締役 ディレクター) × Ryu Ika

オンライン配信 詳細はWEBサイトへ (<http://rcc.recruit.co.jp/gg/>)

第21回写真「1_WALL」展

2019/10/8 火~11/9 土

審査員:

沢山遼(美術批評家)

田中義久(グラフィックデザイナー/美術家)

野口里佳(写真家)

姫野希美(赤々舎代表取締役 ディレクター)

増田玲(東京国立近代美術館主任研究員)

※五十音順・敬称略



第21回写真「1_WALL」展の展示作品
「Big Brother is Watching You」

ガーディアン・ガーデン 〒104-8227 東京都中央区銀座7-3-5 ヒューリック銀座7丁目ビルB1F TEL: 03-5568-8818 <http://rcc.recruit.co.jp/gg>
twitter: @guardiangarden facebook: @guardiangarden.tokyo Instagram: guardiangarden

JR新橋駅 銀座口 ○	有楽町 マリオン ○	地下鉄銀座駅 C2出口 ○	有楽町 マリオン ○
○地下鉄 新橋駅 5番出口	○丸の内線 有楽町線 有楽町線 丸の内線	○丸の内線 有楽町線 有楽町線 丸の内線	○丸の内線 有楽町線 有楽町線 丸の内線
●リクルートGINZAビル	アシックス○	ウエスト○	外通通り
○クリエーションギャラリー-G8	○電通ビル○	○東急プラザ	○有楽町 マリオン

※ヒューリック銀座7丁目ビルの地下1階です。洋菓子舗ウエストの横の階段を降りてください



ウェブサイトでご予約の上、ご来場いただきますようお願いいたします。ご予約がない方はご入場いただけませんのでご注意ください。入口での体温測定、手指消毒、マスクの着用、ご来場者様同士の社会的距離2mの確保にご協力をお願いいたします。37.5℃以上の発熱、咳、咽頭痛、全身倦怠感などの症状がある方は来場をお控えください。お越しいただくまでの移動の際も感染予防に努めていただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。



The Second Seeing

Ryu Ika

Photography



第21回写真「1_WALL」

グランプリ受賞者個展

Ryu Ika 展

「The Second Seeing」

2020 8/18 火 - 9/12 土

11:00 - 19:00

日曜休館 入場無料 要予約

主催：ガーディアン・ガーデン

The Second Seeing Ryu Ika

第21回写真「1_WALL」グランプリ受賞者個展

Ryu Ika展「The Second Seeing」

2020 8/18 火 - 9/12 土 11:00 - 19:00 日曜休館 入場無料 要予約



Ryu Ikaの写真は、フラッシュを焚く以外には、人為的な操作を比較的抑えた写真であると言える。だが、そこには強烈な劇場性と虚構性がある。そして、それは、写真が本来的に世界内世界をつくりあげてしまつたものであるという、写真の存在論自体に関係する。

写真は世界を切り取る装置である。それは、世界のなかにもうひとつ「別の」世界が立ち上ることだ。ゆえに、すべての写真は、世界内世界の入れ子を表現する。ジム・キャリー演じるトゥルーマンの人生が衆人環視のもと見せ物化される「トゥルーマン・ショー」と同じく、写真の世界内世界としてのあり方は、必然的かつ部分的に、虚構的・演劇的であらざるを得ない。だが、それは、トゥルーマン(真の人間のショー「見せ物」という真/偽の二重性をもつ)。この写真は、それと同様の、架空の真実を垣間見せている。

Ryuは、「トゥルーマン・ショー」の監視構造と似たジョージ・オーウェルの小説「1984」に登場する、国民行動のすべてを監視する「ビッグ・ブラザー」に撮影者である自身の姿を重ねてグランプリ受賞作を撮った。この作品の脅威が世界を覆う現在、グランプリ受賞者個展は無事実現されるのだろうかという懸念は残る。そして、このパンデミックを契機として、現在、各国政府による統治と監視の権力が強まる懸念が懸念されている。いまや「ビッグ・ブラザー」は現実のものになろうとしている。

入れ子状の世界内世界を撮影しようとし続け、見ることと見られることに関係に強い関心を抱き続けてきたRyuの写真は、囚らざるこの事態と同期してしまつたと言えるかもしれない。もちろん彼女の写真は、このことを直接示唆するわけではない。だが、そのことと完全に無関係であるわけでもない。われわれすべてが、トゥルーマンとなりつつあるという現実と、その写真は対応しているからである。

沢山遼 (美術批評家)

なんで私は毎日服を着るんだらう?
なんで神聖な場所の中では悪い事ができないんだらう?
なんで自分と他人を見分ける事ができるんだらう?

私が何かを見ると、同時に、その何かにみられるということから、決して自由になることはできない。

それは、自分の中から第二の自分(他人)を分裂し、自分という存在を「見直す」ことなのかもしれない。

みている。
みられている。
みられている側もみられている。

完全な自我を束縛するには演技が必要になる。
そうやって、社会というものは作られている。

今日も幕が開いた。
私の出番だ。

Ryu Ika

Ryu Ika (劇作家)
中国、内モンゴル生まれ。2020年武蔵野美術大学卒業。2019年第21回写真「1_WALL」グランプリ、T3 PHOTO FESTIVALベストポートフォリオグランプリ受賞。同年、個展「いのちを授けるならば」(心げん社・東京・東銀座)、個展「Puzzle Mapping」(AMAC Projectsギャラリー・フランス・パリ)。また、他多数のグループ展に参加。清里フォトアートミュージアムに作品12点収蔵。

トークイベント

2020 9/2 水 19:10 - 20:40 参加無料・要予約

姫野希美 (赤々舎代表取締役 ディレクター) × Ryu Ika

オンライン配信 詳細はWEBサイトへ (<http://rcc.recruit.co.jp/gg/>)

第21回写真「1_WALL」展

2019/10/8 火 ~ 11/9 土

審査員:

沢山遼 (美術批評家)

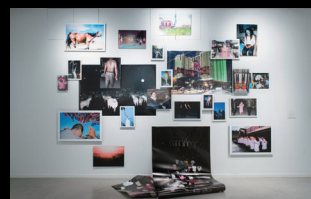
田中義久 (グラフィックデザイナー/美術家)

野口里佳 (写真家)

姫野希美 (赤々舎代表取締役 ディレクター)

増田鈴 (東京国立近代美術館主任研究員)

※五十音順・敬称略



第21回写真「1_WALL」展の展示作品
「Big Brother is Watching You」

ガーディアン・ガーデン 〒104-8227 東京都中央区銀座7-3-5 ヒューリック銀座7丁目ビルB1F TEL: 03-5568-8818 <http://rcc.recruit.co.jp/gg>
twitter: @guardiangarden facebook: @guardiangarden.tokyo Instagram: guardiangarden

JR有明駅 銀座口	有明駅 C2出口	有明駅 C2出口	有明駅 C2出口	有明駅 C2出口	有明駅 C2出口
地下鉄 有明駅 5番出口	丸の内線 GINZASビル	丸の内線 クリエーションギャラリーG8	丸の内線 アジックス	丸の内線 タレスト	丸の内線 電通ビル



ウェブサイトでご予約の上、ご来場いただきますようお願いいたします。ご予約がない方はご入場いただけませんのでご注意ください。入口での体温測定、手指消毒、マスクの着用、ご来場者様同士の社会的距離2mの確保にご協力をお願いいたします。37.5℃以上の発熱、咳、咽頭痛、全身倦怠感などの症状がある方は来場をお控えください。お越しいただくまでの移動の際も感染予防に努めていただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

